

## 心豊かで主体的に活動する生徒の育成 ～集団づくりと授業づくりの実践を通して～

### I 研究の内容

#### 1, 主題設定の理由

本校では、平成22年度から4年間にわたり「心豊かで主体的に活動する生徒の育成～表現力の育成を図るための言語活動の工夫を通して～」という研究主題のもと、研究を進めてきたが、集団としての成果が上がる中で、新たな課題として「個の力」があげられた。そこで、一昨年度は「心豊かで主体的に活動する生徒の育成～個の力を向上させるためのQUアンケートの活用～」と研究主題を改めた。甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「学級づくり・集団づくり」に着目したQUアンケートを活用した実践は、各学級のより良い集団づくりに結びつき、学級集団としての質も向上につながった。さらに昨年度は、QUアンケートの活用を継続しながら、新たに甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「授業づくり・授業改善」にも注目し、「心豊かで主体的に活動する生徒の育成～集団づくりと授業づくりの実践を通して～」と副主題を改め、集団づくりと授業づくりの両面から研究を進め、学び合い支え合う学級集団を目指すことができた。今年度もこの研究主題・副主題を継続し、「授業づくり」と「集団づくり」の両面から研究を深めていくことで、近年求められている多様な力をより一層高めていくことができると仮定し、本主題を設定した。

#### 2, 研究の具体的内容と方法

##### (1) 集団づくり

①QUアンケートを活用し、K13法を取り入れた支援法(エンカウンター・ソーシャルスキル)の研究と実践

##### ②塩北ライフの実践

- ・挨拶、授業規律、生活規律の徹底
- ・学級集団だけでなく、部活動や集会、行事を通して返事、挨拶の徹底
- ・その場に応じた言葉遣い
- ・日々の表現活動(スピーチ、掃除の反省会、生活記録ノート)

##### (2) 授業づくり

①甲州市ティーチャーズノートを活用した「見通し・振り返り」を大切にした授業の実践

- ・「めあて(目標)」「まとめ(振り返り)」というマグネットを活用し、全授業で同じ形態で授業を進めるよう工夫する。
- ・座席表に要支援の生徒が分かるような工夫をする。→少人数の学校なので校内研の中で全教職員が把握できるようにしていく。
- ・1時間の授業が黒板に収まるように板書計画をたてる。
- ・QUを取り入れた指導案を作成する。

##### ②基礎学力の定着に向けての実践

- ・毎週行われる学力定着テスト(ランクアップテスト)、定期試験前の学習会(北斗タイム)の実施
- ・家庭学習への取り組み(毎日10分の「家庭学習スタンバイ」の時間を活用)

- ・読書活動の推進（朝読書，一斉読書の取り組み）
- ・夏休みの学習会の実施
- ・NRTの実施と活用

## II 成果と課題

### 1, 成果

昨年度の研究主題と研究副主題を継承し，2年目の研究となった。昨年度の反省を生かし，新たな工夫も取り入れて研究を進めることができた。

まず，昨年度からの継続研究として，甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「学級づくり，集団づくり」に着目したQUアンケートの活用が挙げられる。この実践は各学級のより良い集団づくりに結びついている。小規模学校の利点を生かし，全クラスの結果を全職員で共有することで，生徒理解が深まるだけでなく，きめ細かい支援ができるようになった。その結果，どのクラスも，1回目に比べ2回目の満足度が向上しており，学級集団としての質が向上した。

また，甲州市ティーチャーズノートを活用した「見通し」と「振り返り」を明確にした授業実践を取り入れた授業づくりを進めていくことで，各学級集団が，支え合い学び合うことのできる質の高い集団となってきている。2回の研究授業では，生徒の学び合う姿が見られ，日常の取り組みの成果が表れていた。

次に，今年度初めて取り入れた実践は，「家庭学習スタンバイの時間」の導入である。毎日清掃の後の10分間，自主学習ノートにその日に行う家庭学習の計画を立てる取り組みである。この時間の導入により，自主学習ノートの提出率が昨年比べて向上し，内容もよくなった。よりレベルの高い家庭学習への取り組みが必要だと思われるので，今後さらに検討していきたい。

### 2, 課題

今年度の研究の課題としては，実践の一定の成果はあった中で，より質の高さが求められるものとして2点挙げたい。

まず，「めあて」「振り返り」の質を高めることである。全教室の黒板に「めあて」「振り返り」のプレートを設置し，それを活用して授業を進めることは定着しているが，その内容により工夫が必要であるという反省が出された。授業の内容や教科の特性によっては難しい部分も多いが，「○○ができるようになろう」「○○について調べよう」といった表記にとどまらず，生徒の目線に立ったより具体的な「めあて」「振り返り」の提示が行われるよう，さらに研究を深めていきたい。

次に，家庭学習の取り組みである。家庭学習スタンバイの時間の設置により，家庭学習への意識が浸透してきたので，レベルアップを目指したい。反復練習のような内容も大切だが，生徒が自分の興味関心のあることや苦手なことを見つけて，主体的に取り組む学習を目指していきたい。

## III 成果物

### 研究授業学習指導案

- (1) 2年国語 単元名「なぜ，向田邦子は父親を描くのか考えよう  
～複数の文章の表現を比較し，根拠を明確にして自分の考えをまとめる力～」
- (2) 2年音楽 題材名「歌詞の内容や曲想を味わい，表現を工夫しよう」  
比較聴取教材 「愛のあいさつ」 歌唱教材 「名づけられた葉」